

未 来 × 伝 統

真壁石燈籠を未来へ伝える

新たに3名の作家が

伝統工芸士に認定

(右から)

松崎 幸司さん (真壁町椎尾)

渡辺 幸雄さん (真壁町田)

寺西 俊雄さん (真壁町椎尾)



伝統的工芸品として、国の指定を受けている真壁石燈籠。この工芸品は、100年以上前から続いていく伝統的技術や技法を用い、原材料に昔から使われている真壁御影石などを使用することや手作りで作られることなど、5つの条件を満たして、経済産業省の指定を受けたものです。茨城県では、「結城紬」「笠間焼」に次いで指定されました。

今回その伝統を受け継ぐ匠として認定された3名の方々は、それぞれ「人に喜んでもらえるような作品を作りたい」(松崎さん)「伝統を継続・継承していきたい」(渡辺さん)「石の文化を広め、後世につないでいきたい」(寺西さん)と話し、地場産業である石材業の発展と石文化の継承を強く思うその言葉には力が満ちあふれていました。

真壁石燈籠の一部を紹介



勤修寺型燈籠



三月堂形燈籠



高桐院形燈籠

真壁石燈籠制作現場のひとつコマ

